

平成31年度 学校自己評価表

鳥取県立米子西高等学校

学校教育目標 質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知・徳・体・志」のバランスのとれた人材を育成する。	今年度の重点事項	1 自己実現を可能にする学力の向上 2 基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立 3 安心且つ切磋琢磨できる人間関係の構築 4 保護者・地域と連携した活力ある学校づくり
---	-----------------	--

評価項目	具体項目	現状	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 自己実現を可能にする学力の向上	主体的に学習に取り組む意欲・態度の育成	真面目で素直であるが、積極的・主体的に取り組む意欲に乏しい生徒が多く、授業改善や探究的な活動を通して、主体的に学習する意欲や態度を育成することが必要。 「みらいチャレンジ活動」も3年を経過して形はできてきたが、自分の問題として課題設定をしたり、フィールドワークや聞取りなどを実施し、問題解決を探究するグループは少なく、単なる調べ学習で終わってしまっているものが多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動により、生徒の主体性を育成する。 授業の質的改善に取り組み、主体的に学びに取り組んでいると答える生徒が65%以上になる。 (R2:75%、R3:85%)	「総合的な学習の時間(みらいチャレンジ活動)」の充実と成果発表会により、生徒に達成感・効力感を獲得させる。 主体的・対話的で深い学びの推進と授業研究会の充実を図る。 授業でタブレット又は電子黒板を利用する教員が50%以上	C	・みらいチャレンジ活動地域課題改善コース選択生徒は61名19% ・主体的学習者育成方策等を保護者へ通知、教科面談シート、ポートフォリオを紙ベースで導入 ・長期休業中の学習会参加者は231名26% ・9月学習時間調査結果一日平均 1年:76.4m 2年:文 51.3m 理61.6m 3年:文A 143.7m 文B 90.0m 理 111.8m ・アクティブ・ラーニング推進月間の研究授業、授業研究会のあり方を変更 ・9月末現在におけるタブレット利用率は15.5%	
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が48名・難関私立大現役合格者18名であり、目標を下回った。	国公立大学現役合格者50名 (R2:55名、R3:60名) 難関私立大学現役合格20名 (R2:25名、R3:30名)	学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた進路指導を丁寧に行う。	C	・小論文指導実施要項・面接指導実施要項を定め、体系的取組化 ・進路調整会で個に応じた進路指導 ・生徒の進路意識の向上が課題 ・10月、11月マーク模試の数値目標策定	
2 基本的な生活習慣と社会的規範意識の確立	基本的な生活習慣の確立	時間に余裕をもって行動する生徒が減少傾向にあり、集会等で社会性の向上に係る指導を行うとともに、自律した態度を育成する必要がある。	年間の遅刻者数が、1学級あたり平均で延べ38回未満 (R2:35回未満、R3:30回未満) 規範意識の向上と挨拶・掃除の徹底	様々な場面で、生徒が自立的に行動のできる仕掛けを考案する。 職員の挨拶の励行と生徒が主体となった「あいさつ運動」を展開する。 掃除を徹底し、校内美化に努める。	C	・上級生になるほど遅刻者数が多い。 ・8月末遅刻者数は、1学級あたり平均で延べ11回 ・生徒によるあいさつ運動は、マナーアップ運動時のみ。 ・トイレの掃除道具整備、掃除手続の掲示を行った。	
	自尊感情の育成	部活動は活発に行っており、本校の活性化につながっている。普通科高校として適正な部活動を行うとともに、部活動を通して人間力を高めることが必要である。 真面目な生徒が多いが、自信を持ち、他者を認める気持ち等を育成する必要がある。	部活動と学習が両立できる生徒を育成する。 運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 SNSトラブルによる生活指導委員会の開催が3件以下 自己肯定感の高まりを感じる生徒が65%となる。 (R2:70%、R3:75%)	本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 学校業務改善の取組を進め、生徒指導の充実を図る。 講演や集会・授業等を通して注意喚起と情報リテラシーの育成を図る。 e-ポートフォリオを活用し自らの成長を実感できる仕組を構築する。 hyper-QU検討会、事例検討会を開催して、具体的な生徒対応を進める。	C	・本校部活動方針に沿った部活動運営とは言い難く、引き続き努力する。 ・8月末現在全国・中国大会出場 運動部14競技、文化部9部門と前年度並みである。 ・SNSトラブルはなかった。インターネット安全・安心利用推進モデル校に指定 ・ポートフォリオは、紙ベースで導入し、1学期末にデータ入力実施 ・hyper-QU検討会で早期対応を進めている。 学級生活満足群 55%	
4 保護者・地域と連携した活力ある学校づくり	地域資源を活用した教育活動	地域資源の活用など、積極的な地域連携が望まれている。	地域の資源を活用した体系的・組織的な教育活動を考案する。	「総合的な探究の時間」と「総合的な学習の時間(みらいチャレンジ活動)」の接続を考案するとともに、成果発表会を充実させる。	B	・1年次生の「総合的な探究の時間」に地域の人材を活用した社会人講話(講師14名)を企画	
	学校の魅力・特色の情報発信	地域の中学校と連携するなど、本校の魅力地域に発信する必要がある。	中高連携芸術活動事業の5回実施、及び中学生20名以上の参加	中高連携事業を拡大し内容を充実させる。 総合芸術祭「翠燦く」を開催し、広報活動を充実させる。	C	・中高連携事業は参加者なし ・「翠燦く」は、テーマを「勢(いきおい)」と決め、進行中	

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要